

「福井県サッカー環境プロジェクト」を発足 2018年の福井国体を機にさらなる飛躍を目指す



2月下旬に行われた第2回サッカー環境プロジェクト会議の様子。
4月からの活動スタートに向け、活発な議論が交わされた

サッカー環境の改革に着手

福井県協会は2011年12月、技術委員会のメンバーが中心となって「福井県サッカー環境プロジェクト」を立ち上げた。

6年後の2018年、福井県で1968年以来2度目となる「国民体育大会」が開催される。各別で地元元の躍進が期待されるが、国体のサッカー競技は長らく結果が振るわない現状に関係者は危機感を募らせていた。

成年男子や女子代表は北信越予選を突破するものの、本大会ではなかなか勝利を手にできず、少年男子代表に至ってはU・16化されてから本大会への出場を一度も果たしていない。こうした不振を打破するためには抜本的な改革が必要と考え、そこで福井県協会は、「環境面」の改善に目をつけた。

本プロジェクトの立案者である技術委員会の後藤敏紀強化部長は「福井国体で好成績を取めることだけを目標とするのではなく、国体を契機に県全体のサッカー環境を充実させる」と狙いを話す。福井県

協会として、まずは福井国体に向けて改革を進め、さらにその先の未来へつなげていくために、「福井のサッカーを変える」一大プロジェクトがスタートした。

5つの施策をスタート 検証・改善を重ねて質を上げる

昨年12月の第1回強化プロジェクト会議で後藤強化部長から「人は環境で変わる。その環境は人がつくる」と熱いメッセージが発信され、同プロジェクトが動き出した。今年4月から具体的な活動を始めるにあたり、まずは「エリート開発」「指導者育成」「トレセン強化」「成年男子強化」「女子強化」の5部門を設置し、それぞれグループを結成。47FAインストラクターを各グループの中心に据えるほか、熱意を持った指導者を選出して1グループ10人程度のメンバーを置いた。

そして、各グループで随時会議の場を設けて活動計画を立て、実施に移す。その中で、年2回チーフ会議を開いて情報を共有し、多面的に検証と改善を繰り返す体制を構築した。「自発性に富んだ仲間がそろった。少しずつクオリティを高めて、レベルを追求していければ」と松本吉英ユースダイレクターが期待を寄せるように、強固な基盤ができてきた。

それぞれの課題を抽出し、 強化の礎を築く

現時点では、プロジェクトを統括する松本ユースダイレクターや後藤強化部長、広橋正司チーフインストラクターを筆頭に、各グループがさまざまな課題にアプローチし

たり、見直しを図る方法を模索している。

少年男子ではU・12年代からの積み上げが必要のため、各年代のゲーム環境やトレセンの充実、キッズへの普及・育成と取り組むべきことは多岐にわたる。U・15、U・18年代は県内リーグが整備されているが、U・12年代のゲーム環境を見ると、リーグ戦を実施していない地区がある。こうした地区への働き掛けはもちろん、「U・12からU・18年代全てでリーグ戦にチームを持たせ、目指すゲームの姿を共有していきたい」と後藤強化部長が掲げる目標に向かっていくことで、育成年代を通してより質の高いゲーム環境の実現を目指す。

強化を進めていく中で、ゲーム環境と同じく重要な鍵を握っているのがトレセンだ。現在、U・11からU・16の各年代でトレセンを展開する傍ら、年3回トレセンスタッフ研修会を実施して種別の垣根を越えた連携を深めている。ここは全力でゴリーの指導者が一堂に会して切磋琢磨する機会となっているため、その好適な場を利用してさらなる一貫指導体制の充実と指導法の共有などを進めていく。その下の年代では、福井県協会として月に1回のペースでU・9、U・10年代にトレーニング環境を提供し、新たに選手の発掘・育成に取り組むことになっている。サッカーの楽しさを知ってもらい、裾野を広げてU・11からのトレセン活動につなげるシステムで選手を育てていく。

一方、成年男子では、北信越フットボールリーグ所属クラブから選手を選抜して県代表のチームを編成しているが、「過密スケジュールの中で、どれだけ選抜の練習会を確保し、1つのチームとしてまとまれるかが課題」(後藤強化部長)だという。この



トレセンに関わる全カテゴリーの指導者が集まるトレセンスタッフ研修会。皆で意思疎通を図り、一貫指導体制をより強固なものにしている

点については、高校・大学・社会人の3カテゴリーで国体強化選手を選出するほか、定期的に練習会を開いて選手を集め、県の代表だという意識を植え付けることでチーム強化を進めることにしている。

女子は、全国大会で活躍している福井工業大学附属福井高校が主体となったチームを結成しており見通しは明るい。しかし、今後はサッカー人口の拡大やユース以上の年代の受け皿の確保など、福井県を代表する選手を増やしていくことが必要となるだろう。

プロジェクトを進めていく上で、県内の同じ志を持つ仲間を増やしながらの指導者のレベルアップと情報共有は欠かせない。指導者が同じベクトルに向かい、質の高い指導を施していくことで良い選手が育つ。*まとまりが強い県民性を生かし、選手・指導者が手を取り合いながら福井のサッカー文化構築へ——。福井県協会の挑戦が始まった。